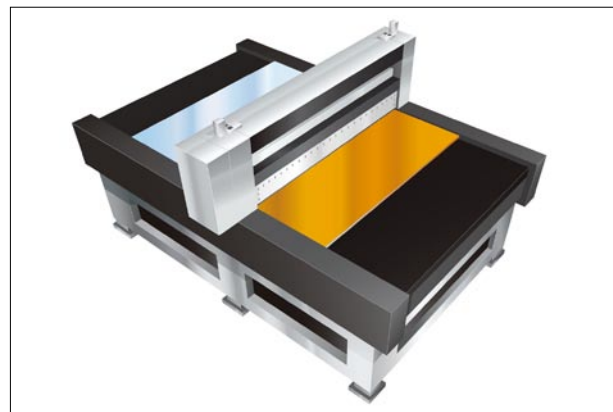


大型ガラス基板に対応した新たな塗布システムを開発 ～浮上搬送塗布技術を駆使し、生産性の向上とランニングコストの削減に貢献～

大日本スクリーン製造株式会社はこのほど、独自の浮上搬送技術と塗布技術によって大型ガラス基板に対応した、新方式の塗布システム「レビコータ[®]」を開発。フラットパネルディスプレイ（以下、FPD）用塗布現像装置「SKシリーズ」に搭載し、2010年12月から販売を開始します。



レビコータ[®]

☆ この画像の印刷用データ（解像度300dpi）は、
下記URLよりダウンロードできます。
(www.screen.co.jp/press/nr-photo/)

液晶パネル市場では、液晶テレビの大画面化や3D化に加え、新興国での需要が伸長しており、今後さらなるパネルの大型化と需要の拡大が見込まれています。そのため、各パネルメーカーでは、生産効率の向上やコスト競争力の強化を目的に、第8世代と呼ばれる大型ガラス基板（2,200mm×2,500mm）の生産ラインへの設備強化が一段と進むとともに、第10世代（2,850mm×3,050mm）以降のガラス基板に対応する設備の導入に向けた動きが活発になってきています。

このような業界の動向を見据え、当社では2003年にスリット方式の塗布システム「リニアコータ[®]」をいち早く開発。第8世代対応の製造装置などに搭載され、当社の塗布現像装置「SKシリーズ」の世界トップシェア獲得の原動力となりました。今回開発した「レビコータ」は、「リニアコータ」で培った技術と実績を基に、さらなる大型化に対応できる装置へと進化させたもので、「リニアコータ」の優れた塗布性能はそのままに、ガラス基板を空気で浮上させ移動させながら固定ノズルで感光液を塗布する、独自開発の浮上搬送技術と塗布技術を採用。「リニアコータ」に比べて約20%の生産性の向上を実現するとともに、塗布に使用する感光液を最大20%削減することに成功しました。また、ステージ（塗布台）へのガラス基板の吸着固定が不要なため、基板裏面へのごみの付着を防止できるほか、はく離帯電による静電気の発生も低減するなど、安定した塗布性能により、歩留まりの向上にも貢献します。さらに、ステージの分割輸送が可能のため、第10世代以降の装置における輸送の課題も解決できる装置となっています。

当社は、今回の「レビコータ」の開発により、大型化に加え変化し続けるFPD業界の発展に貢献していきます。